

2018 規則について

2018年1月 現在
日本ジェットスポーツ連盟

※ 規則集について 規則集に書いてない事をしてはいけない

2018規則変更点

500 競技種目等

- 4 その他のスタート方法で実施する時は、JJSF の承認を得なければならない。ただし、競技期間中、悪天候等により安全上その他のスタート方法を実施する場合、レースディレクターの権限で実施できる。
- 5 スタートのやり直し
フライングした艇を確認できた場合、再スタートを行う。
フライング等の違反のあった場合、スタートのやり直しとなる。違反者はデッドエンジンスタートとなる。状況により、違反のあったライダーに1周減のペナルティーを与え、レースを続行する場合がある。

504 スタート時の妨害

スタートから最初のブイまでの間に、斜行があった場合、再スタートとする。
違反したライダーは再スタートにおいては、デッドエンジンスタートまたは、それ以上のペナルティーが課せられる。

505 レースの中止

- 1 次の場合、レースを中止する。
 - (1) フライングしたすべての競技艇を確認できなかったとき。
 - (2) ブイが移動し、安全に進行出来ないと、レースディレクターが判断したとき。
 - (3) スタート後、落水があった場合はレースを中止することが出来る。
中止の原因となったライダーは失格以下のペナルティーとなる。
 - (4) ライダーが危険な状態にあるとき。また、コースマーシャルが救助のためマーシャル艇を離れたとき。
 - (5) オフィシャルが必要と認めたとき。

503 スタート方法

(9) スタートの延期（2 ミニッツホールド）

レースのスタート時、数字「2」、シグナル「赤、点灯」の合図が出ている間のみ延期申請が出来る。一度、スターターが数字「1」、シグナル「赤、消灯」を表示したら、延期申請することはできない。ヒート毎に一度だけスタート延期（2 ミニッツホールド）が許される。

（2 ミニッツホールド）後のスタートは「10 カウントスタート」となり数字「2」、シグナル「赤、点灯」が表示されたら、エンジンが始動する、しないに関わらず、約10秒後には、数字「1」、シグナル「赤、消灯」が表示され、スタートする。

（2 ミニッツホールド）中にスタートグリッドに並んでいないライダーは何らかの理由で再スタートとなったとしても再スタートすることはできない。

600 航法

- 6 ミスブイをした場合、回り直することはできない。フィニッシュするまでに解消ブイを通過することでミスブイは解消される。また、同一周回に複数のミスブイをした場合、ミスブイをした回数だけ継続して毎周解消ブイを通過しなければならない。これに違反した場合は、ペナルティーが課せられる。
- 7 ミスコースをした場合は、回り直してはならない。
- 8 ミスブイ、ミスコースのペナルティーは、次の通りとする。
 - (1) クローズドコース他 1 ラップ減/1 ミスブイ
 - (2) ミスブイをして回り直した場合は1 ラップ減となり、解消ブイを通過してもペナルティーは解消されない。
 - (3) 最終ラップ等で解消ブイが使用できない場合1 ラップ減/1 ミスブイ
 - (4) 解消ブイをミスブイした場合 1 ラップ減となり回り直することはできない。
 - (5) スラローム 10 秒加算/1 ミスブイ
 - (6) ミスコース 失格
 - (7) チェッカー・センターブイ・チェッカー後の指定ブイをミスした場合は失格とする。さらに回り直したらイエローカードを追加する。

605 フラッグ及びライダーの航走義務

1 フラッグ及び航走義務

「グリーン」フラッグ：スタートを意味する。

スタートに関するペナルティーが無いことを意味する。

使用しない場合がある。

801 艇体関係

8 スポンソンは、社外品を使用してよい。ただし、次に適合すること。

- ・本数は、4本（左右各2本）までとする。
- ・ベースが金属製の物でもスポンソンの先端部が金属製でなければ使用できる。
- ・材質は、プラスチック製とする。
- ・危険を生じない形状とする。
- ・長さは、**1000mm**を超えないこと。
- ・取り付けボルトの頭は、大きく突出せず、ナベ型等で、危険のないものでなければならない。（巻末図参照）
- ・全ての前縁及び角は、危険を生じないように丸くしなければならない。
- ・厚みは5mm以上であること。
- ・ハルの滑走面に取り付けてはならない
- ・先端部は進行方向に対して直角方向より前に出ないこと。

スキークラス

- ・バンパー外側のラインからはみ出さないこと。
- ・スポンソンの下端は、ハルの滑走面と側面の交点から深さ40mm以内とする。

ランナバウトクラス

- ・巾は、ハル側面から水平方向に100mmを超えないこと。（巻末図参照）
- ・スポンソンの下端から取り付けスペーサーまでの深さ、スポンソンの下端からハルの滑走面と側面の交点までの深さ、下面溝の深さは、いずれも**63.5mm**以内でなければならない。（巻末図参照）

404 ヘルメット

- 1 乗艇中のライダーは、着用しなければならない。
- 2 自動二輪車及び自動乗用車輛用の JISC 種、スネルのいずれかの検査に合格していなければならない。(DOT 規格のみは不可)
- 3 フリースタイルは、着用しなければならない、上記規格品以外のものを使用してよい。
- 4 一体式のチンガードまたはシールドを外したフルフェイスタイプのヘルメットを使用しなければならない。
- 5 効力については、使用する者の責任とする。
- 6 突起物を有する者、危険な形状のものは使用してはならない。
- 7 落水時の視認のため、明るく目立つ色のものを推奨する。
- 8 柔らかな素材の飾りは、取り付けてよい。
- 9 レースディレクターの判断により使用を認めない場合がある。

406 その他の装備

- 1 乗艇中のライダーは、以下のものを着用しなければならない。ただしフリースタイルのライダーを除く。これに違反した者は参加を認めず、またレース中に脱落した場合は失格とする。
 - (1) 全身を覆う衣類等。
 - (2) バイク用パット付ナイロンパンツ、ウェットスーツまたはドライスーツ、並びに手袋及び靴。
 - (3) 堅牢な脊椎パット。ただし、セーフティジャケットを着用する場合は除く。
 - (4) その他、プロテクター（例：レッグプロテクター等）の装着を推奨する。
- 2 1200cc 以上のクラスでは脛部の 50%以上を覆うレッグプロテクターを装着しなければならない。
- 3 ガラス製ゴーグルの使用は禁止する。
- 4 危険なものを着用及び装着していると判断した場合は、参加を認めない。
- 5 マシンと体を繋ぐワイヤー等は使用禁止とする。

2018 ライダークラスについて

- ウィメンスキークラスは「プロアマウィメンスキー」（P、A、B 統合）とする。
- 改造度は、4 s t は STK、2 s t は SLTD までとする。
- 「B R/A NA STK は O R/A NA SLTD 」に変更されました。